

農薬散布の際の作業者の安全対策について

1 はじめに

生産現場では適正な防護装備の着用が求められていますが、作業性の悪さや夏季の高温時には熱中症等の農作業中の事故も懸念されるため、防護装備の着用を敬遠する場面があります。一方、農薬取締法の一部改正により、農薬使用者に対する影響（暴露量：呼吸と皮膚から体内にとりこまれる量）評価が農薬の登録審査に追加されることとなりました。そこで、農薬使用者への影響を把握するため、施設キュウリ栽培における農薬散布による暴露実態を調査しました。

2 調査方法

全身17か所にガーゼを縫い付けた防除着を着用し、定流量ポンプに装着した吸着剤を口元付近につけて、農薬の付着量や呼吸による吸収量を測定しました。



図1 実態調査時の作業者の様子

3 調査結果

測定の結果、一般的にキュウリは草丈が高く立体的な栽培のため背中、頭、上腕の付着が多い事がわかりました。さらに、葉が茂ると移動時に接触するため暴露量が多くなります。また、散布圧が高いと細かい粒子が空気中に漂うため、農薬の吸収量が増えます。調査結果から、暴露量は、つる下し栽培の導入や整枝を

すすめること、葉から離れて散布することで減少できることがわかりました。また、散布圧は控えめにし、上向きの噴射を減らすことで、呼吸による吸収を減らせます。さらに、後ろに下がりながらの散布の徹底も、効果が期待できます。

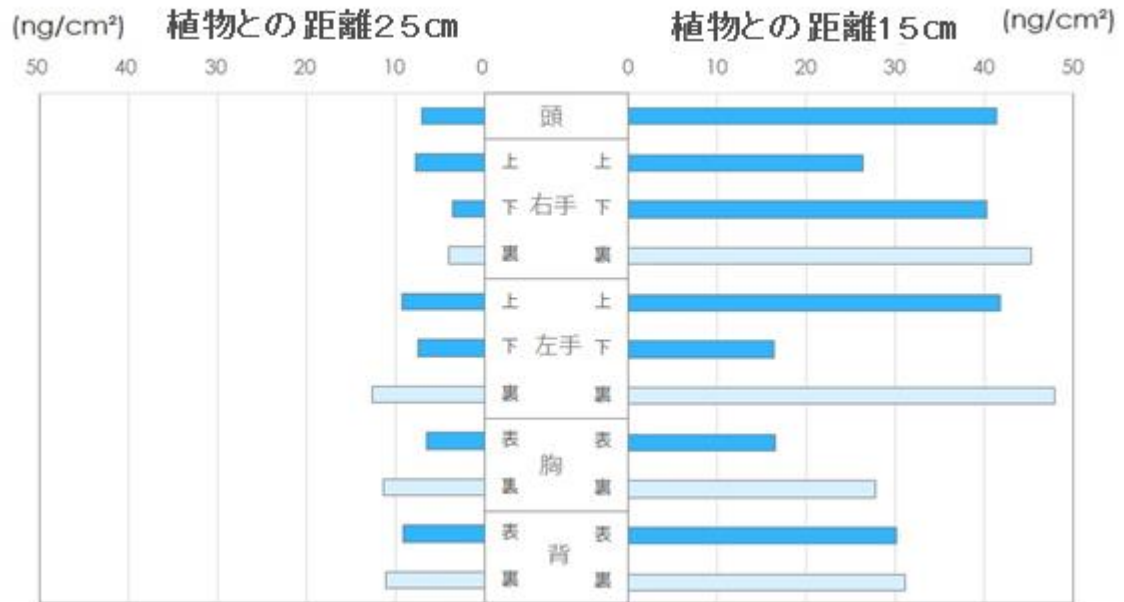


図2 散布時の歩行位置(植物との距離)と付着量(ダイアジノン)

【問い合わせ先】

埼玉県農業技術研究センター 環境安全担当
 電話 048-536-0311 (代表) FAX 048-536-0315